

自転車国際会議 (Velo-city Global2022) 招致について

平成30年1月31日 都市経営戦略会議資料
都市局 都市計画部 自転車まちづくり推進課

1

1.Velo-cityについて

① Velo-cityとは

- 欧州サイクリスト連盟 (ECF) が主催する、世界最大規模の自転車国際会議。
- Veloはフランス語で「自転車」。「自転車に、よりやさしいまちづくり」を基本に都市の持続可能性を向上させることを目的としている。
- 自転車の研究者、有識者、愛好家など(1,000~1,500人規模)が集まり、学術会議として自転車の交流促進、観光、安全利用、都市計画など様々な議題について会議を行う。

② 開催都市

- 1980年にドイツのブレーメンで第1回が開催。以来、13か国で25回開催されてきた。
- 2010年より奇数年はEU域内、偶数年はEU域外で開催されるようになり、偶数年をVelo-city Global (ベロシティ グローバル) と呼称している。

年月	開催都市(国)	参加者数(人)	参加国数
2007年6月	ミュンヘン(ドイツ)	958	50
2009年5月	ブリュッセル(ベルギー)	980	52
2010年6月	コペンハーゲン(デンマーク)	1100	60
2011年3月	セビリヤ(スペイン)	930	50
2012年6月	バンクーバー(カナダ)	950	40
2013年6月	ウィーン(オーストリア)	1400	62
2014年5月	アデレード(オーストラリア)	700	40
2015年6月	ナント(フランス)	1500	80
2016年3月	台北(台湾)	1000	43
2017年6月	アルンヘム・ネイメーヘン(オランダ)	1500	—
2018年6月	リオデジャネイロ(ブラジル)	—	—
2019年	ダブリン(アイルランド)	—	—

2

1.Velo-cityについて

③ 会議形式・規模

- 学術会議としては、本会議・分科会・ワークショップ・視察など多種形式で4日間開催され、全体のプログラム数は100以上、講演者は200人を超える。
- 市民参加、5000人規模の公道封鎖バイクパレードや展示会などのイベントも開催されるほか、夕方は社交プログラム、参加者配偶者や随行者のための文化プログラムも開催。



本会議



分科会

写真出典：
<https://ecf.com/resources/photo-gallery>



展示会



バイクパレード

3

3.Velo-city Global2022さいたま市開催のねらい・課題

現在の情勢や課題等を踏まえた結論

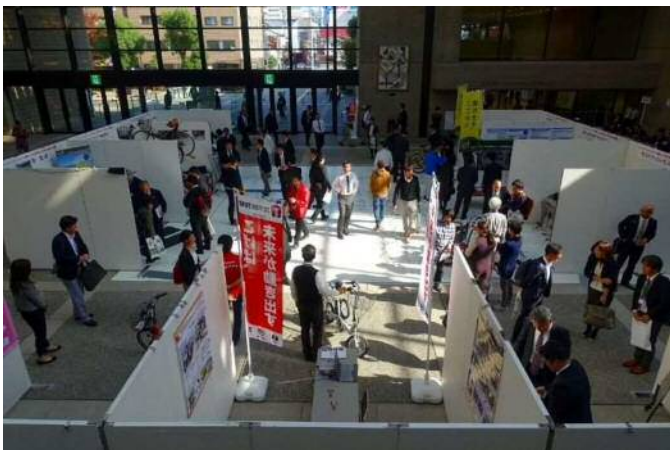
現時点においては、開催にかかる経費の詳細や開催内容が不明確な部分もあるため、

- Velo-cityについては今回立候補せず、その内容について調査・研究を行っていく。
- また、Velo-cityに限らず、類似のテーマの国際会議についても、今後、調査・研究を行っていく。

<参考> 自転車利用環境向上会議とは

① 自転車利用環境向上会議とは

- NGO団体「地球の友 金沢」と開催自治体が共同主催する、国内の自転車施策に関する全国会議。
- 出席者は自治体や警察関係者が主で、他に自転車関連の民間団体等。
- 自転車施策に関する総合的な情報交換機会としては質・量とも他に例はなく、開催後は特に地域の警察との交渉がスムーズになったという声が聞かれる。



5

<参考> 自転車利用環境向上会議とは

② 近年の開催実績

- 本市は第4回に事例発表者として参加し、以降一般参加者として毎年出席。
- 第8回の開催自治体は第7回会議の場で発表されるため、誘致する場合は夏頃までに打診を行う必要がある。

開催回	開催場所
第3回(平成26年度)	宇都宮市
第4回(平成27年度)	京都市
第5回(平成28年度)	静岡市
第6回(平成29年度)	松山市
第7回(平成30年度)	堺市(予定)

③ 開催概要(第6回松山市を例に)

開催日数	2日間	
開催内容	1日目	基調講演・パネルディスカッション等
	2日目	分科会・ワークショップ・総括・現地視察等
参加登録者数	367人(地方自治体134、国54、議員16、大学関係24、民間114)	
登壇者数	24人	
開催費用	国	約54万円(会場使用料等)
	愛媛県	約440万円(会場設営・運営・視察バス等)
	松山市	約134万円(登壇者謝金、旅費等)

※第6回は愛媛県と松山市の共催で、開催規模も過去に比べ大きい。

6